

## 参院選挙

# ネット推薦・熊谷裕人さん(立憲)当選 比例区 若林さん、仲村さん善戦するも届かず

参院選挙では、埼玉県市民ネットワークは、地域政党の立場から、国政政党候補者と政策協定を結び、推薦しました。比例区においては、神奈川ネットワーク運動出身で立憲民主党の若林智子さん、県議選で協力関係にあった社民党の仲村未央さんを推薦。埼玉選挙区においては立憲民主党の熊谷裕人さんを推薦しました。

結果は、比例区の若林さん、仲村さんは善戦するも惜敗。埼玉選挙区では熊谷さんが初当選を飾りました。

全体の結果としては、自民党と公明党の与党は過半数を維持したものの、現有議席を減らし、改憲勢力は今回の選挙で3分の2議席を割り込みました。

全国では1人区の野党統一候補は前回並みの勝利。定数4人の埼玉選挙区で2名の野党候補が当選するなど、野党も「負けない」闘いであったと評価できます。

安倍首相は、「選挙の結果を受け止めて、野党も改憲論議を拒否すべきでない」と発言していますが、選挙結果を見れば、改憲勢力の議席数減により、改憲は遠のいたと考えるのが妥当でしょう。

むしろ、注目すべきは、戦後2番目の低投票率です。

既存政党への不信やあきらめ、政治無関心層が広がる一方、排外主義など極端な主張をする新興政党の台頭。市民的な熟議を積み重ねながら、一步一步改革していく民主的なプロセスを踏むことを忌避する傾向が強まる一方、強いリーダーシップと短期的な成果を求め、失った自信を取り戻すために、わかりやすい敵と自国礼賛を求める傾向が広がっています。

ネットは、市民の生活の中の要求と政治がつながっていることを伝え、参加することで社会が変わっていくことを粘り強く訴えていきます。



若林とも子さん 仲村みおさん くまがい 裕人さん

## 2019年統一地方選結果

埼玉県市民ネットワークでは擁立した候補が全員当選しました。

- 埼玉県議 辻浩司(初当選。前越谷市議)
- 越谷市議 山田裕子(2期目)  
清水泉(初当選)
- 鶴ヶ島市議 大野洋子(3期目)
- 羽生市議 齋藤万紀子(初当選)

## 第23回総代会終了

7月11日にひゅうまんポスト2F会議室で総代会を開催しました。運営委員を含め出席は27名で全議案が賛成多数で議決され、2019年度がスタートしました。今年度は4年に1回の統一地方選の年に当たるため、通常の2月から7月に延期して開催したものです。

そのため今年度の活動期間は7か月しかありませんが、その短い期間に、「地域ネットを2か所増やす」、「政治スクールの開催を検討する」などの積極的な方針が承認され、質量ともに充実をめざしてスタートが切られました。

また、開会の前に、統一地方選で当選した県議をはじめとする5名の議員(1名は代理)からの熱いメッセージがありました。



## 埼玉県市民ネットワーク 地域ネット一覧

- 生き活き市民ネットワーク鴻巣
- 越谷市民ネットワーク
- 市民ネットワーク鶴ヶ島
- 市民ネットワーク所沢
- 富士見市民ネットワーク
- ネットワーク三芳
- よしかわ市民ネットワーク
- まちネット寄居
- はにゅう市民ネットワーク
- さやま市民ネットワーク
- くまがや市民ネットワーク

# 埼玉県市民ネットワーク通信

いっしょにやる! なんとかある!  
自分発でもくらしー!



2019年8月発行 58号

## 「初議会に臨みました」

### 越谷市民ネットワーク 清水泉(越谷市)

越谷市議会は32名の議員のうち6人が新人です。そのうちの一人として6月の議会に初めて質問しました。高齢者福祉の特養の待機者数と総合事業の進捗、自然エネルギーの普及についての質問。特養の待機者数は市内には231名を確認していて2年後までには2施設200床設置予定です。総合事業については参入する事業者が得られていない現状に対して、ボランティアへの期待を求め、仕事として位置づけをすることが必要と意見を述べました。また自然エネルギーについては2年を待たずに市の目標値を達成できそうですが住宅のみの助成なので企業へもする必要があると意見を述べました。

議会での質問は当日いきなり質問するのではなく、開始前に職員と意見交換をしながら形を作っていくのです。議会での質問することにより記録として残ります。それを受けて、小さいことから政策に至るまで変わっていくことがわかりました。市民からの相談を受けて、職員と意見を交わしながらこれからの越谷市がますますよくなっていくように議員として活動していきたいと思えます。



### はにゅう市民ネットワーク 齋藤万紀子(羽生市)

初めての一般質問について色々悩みましたが、1つ目は私たちにとって身近でこれまでも調査・活動してきた「石けん」について。羽生市内の小中学校では、いまだに合成界面活性剤の入った石けんが使われており、合成洗剤の危険性や、環境・人体に与える影響とともに、環境負荷の少ない石けん利用を促す質問内容としました。市から最初「認可されている石けん、費用の面からも変えるつもりはない」との答えでしたが、2017年に無添加せっけんに切り替えた皆野町の例などを含め再質問した結果、「前向きに研究する」とのことでした。今後も粘り強く意義を伝えていきたいと思えます。

私の夫は病気の後遺症で約1年前から車椅子で生活をしており、身近な人が車椅子になったことで初めて知ることが多くありました。そこで2点目は市内公共施設に置いてある一時利用の車椅子について質問しました。調査したところ、タイヤの空気が抜けていてすぐに使えない状態の車椅子が何台もあり、その安全管理や点検マニュアルについて聞いたところ、定期管理はもちろん、これからは様々な立場の人たちが住み、働き、自立できる環境を作っていくこと、様々な視点、立場、方法で、少しずつでもたくさんの人たちが労働やまちづくり、活動に参加していくこと、その環境を整えていくことが行政の責任である、ということも確認でき今後に繋げることができかなと思えます。



## ヤジと怒号の中、県議会で初めての質問

埼玉県議会 辻浩司

当選後、初の定例会となる6月県議会で早速一般質問に登壇しました。

市議会ではほぼ定例会のたびに一般質問をしていましたが、県議会では所属会派の規模にもよりますが、4年の任期中に2~3回しか順番が回ってきません。立憲民主党7名、国民民主党4名の議員とネットの私の計12名で「埼玉民主フォーラム」という新会派を結成しています。



まず、驚いたのは、一般質問をする予定の議員には、議会事務局職員が1名、「担当書記」として配置され、資料収集や執行部とのヒアリングの日程調整などのサポートをしてくれるということです。また、質問原稿の字句の修正なども頼めばやってくれます。果ては、本会議場での「リハーサル」までセッティングしてくれて、そういった手厚さに、「さすが県議会」と驚いたのもつかの間、「あくまで任意ですが」ということで、「質問原稿を執行部側に出してほしい」とのこと。理由を問うと、「質問内容にかみ合う答弁書をするため」という。「ならば、答弁書をあらかじめください、そうしたら当日、さらに深い質問ができるので」とお願いしたが、「そういう前例はない」とのこと。何のことはない、こちらの手の届く範囲で済ませようという姿勢が伝わってきた。

また、答弁を受けての再質問はほとんどしない慣例だそうで、再々質問などもっての外というのが埼玉県議会です。いまや市議会ですら一問一答式が当たり前なのに。

そんな中、私はひきこもり支援やインクルーシブ教育、朝鮮学校への補助金停止問題、放射能汚染土の公共工事への不使用、プラスチックごみの抑制についてなど7項目質問しましたが、ヤジのすごいこと。

私は、質問を深めるためには、再質問はすべきと考えていますので、再質問はもちろん、再々質問までしました。しかし、今議会の質問者15人中、再々質問までしたのは私1人でした。再々質問までいくと「答える必要ないぞ!」などのヤジと怒号が飛び交いましたが、先輩議員に言わせると、今日はおとなしい方だったとのことでした。

県議会改革への道は険しいですが、議会を市民に開かれたものにしていくために、風穴を開けていきたいと思えます。



# 地域ネット活動報告

## まちネット寄居 寄居方式の模索

2019年4月21日投開票の予定だった寄居町議会議員選挙は、無投票となりました。

まちネット寄居と連携することを前提に支援を決めた「大北ひさかつ」（無所属）は、結果無投票当選となりました。寄居町の地盤では、ネットの代理人としての選挙は困難との判断から、地元密着の選挙法とネット会員や新しい流れを期待する人たちの支援を得ての寄居方式として取り組みました。代理人の前段階的な取り組みとして考えています。

結果、無投票当選といった事態となり、複雑な思いではありますが、初めてのネットと連携する議員の誕生は、今後新しい活動の展開が可能となります。まずは、第一関門を突破。今後の活動を組み立てていくことを総会で確認しました。まだまだ見えない部分はありますが、より議会に直結した寄居ネットの活動へと広がりそうです。



## 越谷市民ネットワーク 子どもは社会で育てよう 若林ともこさんトークライブ

6月29日、元神奈川ネットワーク運動代理人で、先月の参院選に出馬した若林ともこさんをお迎えして「ワンオペ育児を考える」と題したトークライブを開催しました。若林さんは夫の転勤に伴う慣れない土地での育児経験から、「親が働いていなくても預かる保育園」の開設、障害のある子どもも一緒に過ごす放課後デイ、産前産後支援など目の前の課題解決を地域で実践してきました。そこで見えた課題を普遍的な制度にするために、横浜市議・神奈川県議としてしくみづくりにも奔走してこられたそうです。

「子どもの貧困や虐待など、子どもや親を取り巻く環境が厳しさを増している中で大切なことは、子ども自身や親が「助けて」と声を上げることができる寛容な社会をつくること。子どもたちに優しいまちは、高齢者にも障害者にも優しいまちなんです。」というお話が印象的



代理人山田ゆう子・若林ともこさん・松田のりこ越谷市議によるトークライブ

でした。参院選では惜しくも議席獲得に及びませんでしたが、これからは連携して活動していきたいと思っています。

## 富士見市民ネットワーク 今年も福島へ

7月13、14日と「第7回 福島を忘れない！全国シンポジウム」に参加しました。

13日は川俣町・浪江町・葛尾村・飯館村の現状報告そして原発に関する訴訟団の報告・最後に記念講演「福島第一原発事故100年たっても収束できない」元京都大学原子炉実験所 小出裕章さん、懇親会。現状報告では、帰還者は65歳以上が多くそのうち老人施設に入られる方もけっこういるそうです。小児甲状腺がんが増加している（福島県内273人）。新しく建てられた学校への通学予算年間2億円。（校内6人/104人）放射能濃度についても報告書によると0.XX（Xに数値が入る）。富士見市では0.0XX。小出さんの講演は、とても分かりやすく、タイトルの意味を漠然と感じてはいましたが、改めて思い知らされました。

14日は雨。飯館村役場→南相馬道の駅→浪江町請戸地区→請戸小学校→大平山コミュニティ広場富岡駅→四ツ倉駅→四ツ倉道の駅→福島。

プレコンパックの残量が少なくなっていました。（大熊町に運んでいるとか240万→170万袋）

浪江町はまだ解除されない地域が多くバリケードと監視人が2人立っているところが多かったです。

初めての富岡駅新しい駅舎で、以前より100M下げて建てられたそうです。ホームに放射能の測定値表示。

家屋解体の進み・プレコンパックの移動・放射能の数値が少し下がった等ありますがまだまだ遅々とした進み方であり、目を離せないと思いました。富士見は見守り続けます。



## はにゅう市民ネットワーク みんなが主役のまちづくり

まだ今年に発足したばかりの「はにゅう市民ネットワーク」のテーマは「みんなが主役のまちづくり」です。市民一人ひとりが生き生きと暮らせる社会を造るには、赤ちゃんからお年寄りまで皆が求める幸福な街づくりをしたいと考えたからです。



その一つに「わくわくカフェ」があります。これは市民と議員が気軽に話し合える集いの場です。参加して頂いた市民の生活に密着した日々の困りごと等を聴き、それをはにゅう市民ネットメンバーを交えて話し合い、市政に関わる事は議会に一般質問として挙げます。また市政に委ねるばかりではなく、一人ひとりの思いを語る事で政治に関心を持ってもらうことも目的の一つです。

また、羽生市はまだ沢山の緑が残る自然豊かな街です。私達は未来の子供達に、この故郷を残す為に環境問題にも取り組んでいきます。その為に地産地消の推進や定期市の開催、空き家の有効活用等、魅力あるまちづくりも同時に進めていきます。

今後も、はにゅう市民ネットワークの応援を宜しくお願い致します。

## 市民ネットワーク鶴ヶ島 フードドライブ、続けてます！

貧困問題を知り、私たちに何かできないだろうかと考え、4年前から生活クラブ生協鶴ヶ島支部のお祭りの日に、フードドライブを受け付けています。生活クラブ生協鶴ヶ島支部、NPO法人ワーカーズコレクティブa.nと私たち市民ネットワーク鶴ヶ島で、合同で話し合い実施してきました。

フードドライブは、1960年代にアメリカで始まりました。家庭で余っている食品を必要な人に届ける活動です。

お祭りの日に、お米や缶詰など賞味期限が3か月以上ある食べ物をメゾンに持ってきてもらいます。その後、社会福祉協議会（生活サポートセンター）を通して、困っている家庭に届けられます。

今年の7月、社会福祉協議会発行の「ふくしのまち」に、この活動が紹介されました。家庭にある食品から“おすそ分け”という気持ちを大切にして、地域のための活動を続けていきたいと思っています。



## くまがや市民ネットワーク準備会 熊谷市政を知ることから活動を開始！

昨年12月に立ち上げた「くまがや市民ネットワーク準備会」ですが、まずは熊谷市政のことをよく知らなければいけないと考え、市政の勉強から始めることにしました。熊谷市で一番基本となる計画が「総合振興計画」とのことなので、市政宅配講座というサービスを利用して市の担当職員から直接話を聞きました。6月29日に開催し、17名の参加がありました。ほとんどが組合員だったのですが、組合員外と思われる市民活動している数名の知人が参加してくれました。



終了後のアンケートでは、市政に対する関心が出てきたという人や参考になったという人がいるなど概ね好評でした。準備会としても、このような機会を沢山作って、広く市民に伝える必要があるのではないかと考えています。残念ながら録音をしていなかったのが、市の職員とのやり取りを正確に再現できないことは反省点の一つです。また今後のために関心があるテーマを参加者に聞いたところ、多岐に亘っていることが分かりました。

準備会としては、今後「食」の問題に焦点をあて、ゲノム編集の問題を学習したり、学校給食の状況を調べたりする予定です。また定期的に機関紙を発行して私たちの活動を広めていきます。

## よしかわ市民ネットワーク いよいよあと5か月！ 2期目の選挙

4年前に準備ネットとして誕生したよしかわ市民ネットワーク。4年間があっという間に過ぎました。議案を読む会、議会報告会&まちかど座談会、『吉川のしずく知り隊』を結成し特別栽培米について学び、田植え、



稲刈りを体験したり、『吉川市の懐事情知り隊』で財政の勉強をしたことから始まった学習会が続いていたり、水についての学習から生まれた『ち〜む・あくあ@よしかわ』も継続中です。他にも貪欲に学ばよしかわネットです(笑)

代理人：岩田京子が誕生した2016年1月の選挙では新人議員が6人も当選し、女性議員が7人(補選があり現在8人)となり話題になりました。市民派の軽やかな風を感じながらのスタートでしたが、3年を過ぎた今、様相はすっかり変わってしまいました。市政運営をチェックする議員を排除する動きが出てきているのです。

来年1月には2期目の選挙。なかなか伝えづらい市政の問題、また市政に届きづらい小さな声をどう繋げていけばいいのか暗中模索です。でも「やるっきゃない」ですね！

## さやま市民ネットワーク準備会 代理人運動 NEWS 第1号発行

2019年2月21日に設立総会を実施でき、歩き始めたばかりの「さやま市民ネットワーク準備会」です。現在は7名で活動しています。代理人運動を進めていくため勉強中の仲間です。

- ・狭山市議会の傍聴
- ・鶴木浄水場見学
- ・市長候補者への公開質問状 などについて支部機関紙にて情報を共有しました。「代理人運動News」第1号を発行し市長候補への公開質問状を掲載しました。

4年後にむけて、代理人の必要性を狭山支部全体で確認してゆきたいと思っています。

